



第14号

発行 平成19年12月22日

茨城県立図書館

ボランティア協議会広報委員会

文責 黒沢 英宣

## かがやき

### 目次

- 1 感服！ 矢祭もったいない図書館
- 2 児童サ - ビスの現況は  
- 読み聞かせ研修会へどうぞ -
- 3 筑波大学附属図書館ボランティア来訪す
- 4 秋 読書フェスティバル4時間の奮闘
- 5 代読サ - ビス講習会をふりかえって
- 6 ボランティア活動へ支援金10万円  
- 今年も水戸西口 - タリ - クラブより -
- 7 ボランティアの声
- 8 ボランティア用のデジカメを使ってください！  
- 利用希望は図書館普及課まで -
- 9 編集後記

### ご注意ください

エプロンを置くボランティア室のラック(プラスチックのケース)について  
- 連絡文書や広報紙の配布用ボックスとしても活用することになりました -

(1) ボランティア全員分のラックが、12月1日(土)に設置されました。必ず、ご自分の名前を探し、ラックの場所を確認してください。

(お願い) その際は、エプロンは、キチンとたたんで置いてください。

(2) ラックには、所属分野の名称とボランティア氏名が記載されているラベルが貼られていますのでご確認ください。

(3) 今後、図書館からの連絡文書のほか、広報紙「かがやき」も郵送しません。郵送代、封筒代等の経費節減のため、このラックに入れますので、全員必ずお取りください。



## 1 感服！ 矢祭もったいない図書館



人口 7,000 人の山間の町、矢祭に図書館が開館したのは今年 1 月 16 日。去年、町当局が実施の町民アンケートで、小さな町にも図書館をとの要望が多かった。そこで、町長は町の財政ではとても実現できない、古本をかき集めるにしても、広告費も出し



えない、と苦慮していた。これを毎日新聞の郡山支局長が耳にして、7 月 18 日に全国版に掲載したところ、翌日には 380 件の電話が入った。何と 11 月末までには 29 万冊が全国から送られてきた。これは大変、と柔剣道の道場を大至急改装し、大勢のボランティアの協力により、とりあえず 3 万冊を配架して、“**もったいない図書館**”と命名、開館の運びとなった。その後も、全国から送られてきた本は合計 5,500 人の方々から 43 万 5 千冊となって、受領謝絶の状況となっている。

そこでわがボランティア一同の見学会・11 月 21 日となった。日頃の一同の研鑽ぶりを天が評価したのか、快晴、寒さを感じない出発だった。

外見はかなり小規模な建物で中に入って、いささか驚かされた。かなりくたびれた古本が並んでいるとの予想に反し、まったく想定外の内容だった。きれいな本が整然と配架されており、高窓の紙障子による採光を考えた明るい室内、快適な空調、しゃれた中庭、閉架書庫の整然とした整備状況な

ど、ただただ感服の連続となった。

館長の説明によると、全国から書籍が到着以降、ボランティアが最繁忙時には 1 日 3 交代の精力的な作業を重ねてきて、現状ではほとんど整理整頓を終了した。残念ながら、送付された中には、古雑誌、図書館には保持しえない書物もかなりあって、処分に苦労した。謝絶後の今日もなお、新刊本を 20 冊、30 冊寄贈される方もある。

常勤職員は女性 1 人のみ、館長も非常勤、あとは常時 5 人ほどのボランティア(10 月から時給 500 円)で運営している。毎月第 3 日曜日「矢祭読書の日」には館長が AM7:30 から宣伝カーを運転、山奥の集落から声をかけはじめて、「読書しましょう」と町を一周している。加えて、10 月末、25 箇所の公民館・集会所などの施設に、「もったいない文庫」を設置、各 400 冊配本し、町民の読書推進を図っている。児童・高齢者への読み聞かせ活動は外部出張で行っている。

この一連の事業に投下された資金は 5 億円(福島県の援助は 3 億 1 千万円)で矢祭町は 1 億 9 千万円を支出し、このような内容充実の図書館が誕生となったのである。

往復にはかなりの時間を要するが、再訪したい“もったいない図書館”である。帰途、矢祭山で紅葉狩をして、有意義な行程一日のわれわれボランティア 30 人参加の見学会だった。

〔広報 上條 哲〕





## 2 児童サ - ビスの現況は



- 読み聞かせ研修会へどうぞ -

- 米寿から高校生までの幅広い年齢層 -

5 月以降、大勢の新規参入があり、総勢 81 名となった児童サービスグループは、原則として、毎月第 4 日曜日に班長会議（日曜班、土曜班、週日班など）を持ち、情報交換、問題討議を続けています。これにより、他の班の状況把握、自己の班の反省など成果を見ることが出来ます。残念ながら新規参入者の脱落を認めざるを得ない状況もあり、活動内容の反省、グループ内での相互認識の強化、意思疎通の検討もかかせないと考えられます。さらに、お客さんである幼児、児童の来場者の減少傾向も認めざるをえず、どのように対処するかの対策も必要です。

- 読み聞かせ研修会にどなたでもお出掛けください -

読み聞かせでは、先駆者として高く評価

されておられる大畑美智子氏をお招きして、次の日程で研修会を開催します。児童サービスではないボランティアの方が 1 回でもご参加なされば、お子様、お孫さんへの読み聞かせの折にも、日頃、活用いただけると考えます。どなたでも気軽にお出かけください。

日時：12 月 9 日(日)、

来年 1 月 27 日(日)、2 月 16 日(土)

午後 2 時から 4 時まで

場所：県立図書館 3F 会議室

ちょっと ひとこと

4 歳から 7 歳の 10 人ほどの対話の中で、全員が親孝行、貧乏の言葉を全く知らない、意味も解からないことに、いささか啞然とし、これらの言葉は死語となったかとしみじみと時代の差を痛感。

〔児童サービス 上條 哲〕

## 3 筑波大学付属図書館ボランティア来訪す

- グル - プ討論で交流を深め合う -

平成 19 年 9 月 7 日(金)、筑波大学付属図書館ボランティア(組織の名称:図・ボラの会)15 名が来訪され、県立図書館の各施設を見学の後、当日参加した県立図書館ボラ

ンティア 24 名と交流会を開催しました。お互いの活動状況を発表した後、4 グル - プに分かれ、共通する個別の活動についての話し合いをしました。

筑波大学附属図書館ボランティアの皆さんの意欲はきわめて旺盛で、私たち県立図書館ボランティアは、その充実した活動ぶりに大いに刺激されました。その一端をご紹介します。



- (1) ボランティア活動の創設は、平成7年、48名でスタートし、欠員が出たときだけ補充募集をし、現在に至っている。
- (2) 補充募集の際、ボランティア希望者は、5日間の事前研修を受講し、研修終了後活動を始めることができる。
- (3) 研修の講師は、各分野の代表者と図書館職員が務める。
- (4) 8つの分野(別記)の中で、総合案内か利用環境整備(書架整理・図書ラベル修理作業等)のどちらかの分野に誰もが所属することになっている。
- (5) 週1回以上の活動が義務となっている。
- (6) ボランティアへの文書、広報、その他

のお知らせは、ボランティア室に個々のレタ-ケ-スを設置しており、そこに置くことにより、発送はしない。

(7) ボランティア同士でそれぞれ特技を生かしての自主的な講習会を開催しており、相互啓発や親睦を深め合い、一層活動を楽しんでいる。(例:折り紙・和布・ロシア語・パソコンその他の講習会)

(8) 広報紙「うたがき」は、図書館利用者にボランティア活動を知ってもらうため、広報部会が毎年1回程度、テ-マを決めて発行している。



(9) 広報紙とは別に、「図・ボラの会」の会報を毎年11回発行している。この編集・発行については、全部の分野から順番で参加するボランティアが作っている。

(10) ボランティアの会に世話人会(役員会)が設置されており、毎月ミ-ティングを開催している。

〔広報 黒沢 英宣〕

## 筑波大学附属図書館ボランティアの分野別活動

(1) 図書館総合案内

( 図書配置場所案内や同行しての資料探索案内、検索用端末機器の操作案内等 )

(2) 体の不自由な方に対する図書館利用支援

( 対面朗読等・資料探索代行・車椅子の介助による移動支援等 )

(3) 利用環境整備

( シェルフリ - ディング〔書架整理〕・図書ラベルの補修作業〔別館の体育・芸術図書館では、本の修理を試行中〕 )

(4) 図書館見学案内

( 毎年 2,000 人以上の見学者が来訪。そのほとんどの案内をボランティアが引き受けており、案内用マニュアルが用意されている。ボランティアが作成した英語版もある。 )

(5) 外国人に対する図書館利用支援

( 英語による館内見学案内・端末機器操作補助・日本文化紹介のための折り紙講習会の開催等 )

(6) 特殊資料整理

( 美術館・博物館等の展覧会の図録やポスタ - の収集とデ - タ入力をしており、デ - タベ - スとして公開 )

(7) 図書館公開事業への協力

( 図書館恒例の貴重書特別展の警備協力 )

(8) ボランティア活動の広報

( 図書館利用者向けの広報紙「うたがき」の年 1 回程度の発行 )

## 4 秋 読書フェスティバル 4 時間の奮闘



### 休み無しでトライ

10月28日、児童サービスグループはam11:30からpm3:30まで、東京の寄席なみに休み無しの連続演技にトライしました。読み聞かせ、カーテンシアター、紙芝居、親子（幼稚園児）共演読み聞かせ、パネルシアター、腹話術など数々の演技継続の4



時間、総合司会は80歳直前の加藤忠司さんと大学1年生の沢邊祐衣さんの（爺さんと孫のような）コンビが演技向上に大いに役立ちました。



これからも、このような催事には、児童サービス各グループの日頃の研鑽の成果を

持ち寄って、ロングラン演技を行いたいと考えます。

〔児童サービス 上條 哲〕



### ワンコインカフェ

台風一過の雲ひとつ無い晴天の空の下、いばらき読書フェスティバル2007が開催され、県立図書館ボランティアも喫茶コーナーで恒例どおり参加しました。

8人のボランティアの皆様の一致団結のパワーで、和気あいあい、コーヒーとジュースを販売しました。今回は、コーヒー100円、ジュース50円のワンコインカフェとし、ワンちゃんの置物をマスコットに開店し、8,564円の収益を得ました。

この金額を協議会の会計に繰り入れました。

〔広報 土屋 純子〕



## 5 代読サービス講習会をふりかえって



かねてから、サービスを受けている方(視覚障害の方)のお話を伺いたいとの希望がボランティアからでていましたので、視覚障害者の方を講師に、1月13日に講習会を開催しました。図書館での障害者サービス、聴きやすい録音作成、対面朗読など、このようなテープなら障害者が聴きやすいという手本を聴かせていただきました。参考文

例を各自音読したりして有意義な講習会になりました。

この講習会に18年度の水戸西ロータリークラブ支援金の中から5万円を使わせていただき、ありがとうございました。今後も受け手側に、「よりよいサービス」ができるよう努めていきたいと思ひます。

〔代読 益谷 さかえ〕

## \* \* 6 ボランティア活動へ支援金10万円 \* \*

- 今年も水戸西口 - タリ - クラブより -

平成19年11月28日(水)、平成18年に引き続き、水戸西口 - タリ - クラブより10万円を活動支援金としていただきました。

各ボランティア分野におかれましては、より一層、活動の活性化と充実をはかることを目的として、効果的に支援金を活用していただくようお願いいたします。

### 〔お 願 い 〕

各ボランティア分野において、支援金の活用の目的に合致した具体的な用途を協議していただき、協議の結果をボランティア協議会へ提案してください。

ちなみに、直近のボランティア協議会の開催予定は、平成20年1月12日(土)です。

なお、その後に開催されるボランティア協議会へ、平成20年度中の用途計画として提案されてもけっこうです。

〔ボランティア協議会会長 福田陽一〕

### ボランティア協議会会計の現状について

現在、協議会名義の通帳には、支援金の他に毎年読書フェスティバルのとき出店するボランティアの店(「オープンカフェ」)の収益金等、42,396円の預金があります。協議会として、各種の年間事業等、ボランティア全体のために有効に活用できるよう管理しています。

〔ボランティア協議会会計 黒沢 英宣〕



## 7 ボランティアの声



ボランティア 2 年生。感激&勉強の日々！

小田部 和子

始めてみて気付きました、ボランティアってそれを利用する方がいるから成り立つんだということ。

代読と広報のお手伝いをさせていただいています。

代読でお会いする方々は、とても上手に

他人の力を求めてくださいます。権利とか当然とかいうものではなく、とても自然に「手を貸して」と言ってくださる。それは心地よく堂々としていて、私のお手本です。毎回感激&勉強です。

## 8 ボランティア用のデジカメを使ってください！

- 図書館普及課で保管しています -

昨年、水戸西口 - タリ - クラブからの支援金の一部で購入したデジタルカメラ（カシオ「エキシリム700」）を活動記録にご利用ください。

デジタルカメラは、図書館普及課で保管していただくことになりました。ご利用の方は、お気軽に普及課 廣原さんまでご連絡ください。（取扱説明書・充電器付き）

〔広報 黒沢 英宣〕

## 編集後記

さわやかな秋晴れの下に、図書フェスティバルを楽しんだと思ったら、もう今年も終わろうとしています。年々季節の移り変わりが早く感じられるようになるのは私ばかりではないようです。年の瀬のあわただしい中、「かがやき」第14号をお届けします。今年の様々な思い出をよみがえらせながら、ご一読いただけたら幸いです。

来年もよい年でありますように。



〔上野 清子〕